

軍艦島の現地研修を開催

日本最古RC住宅など調査

徳納会長「補修担う人の経験に」

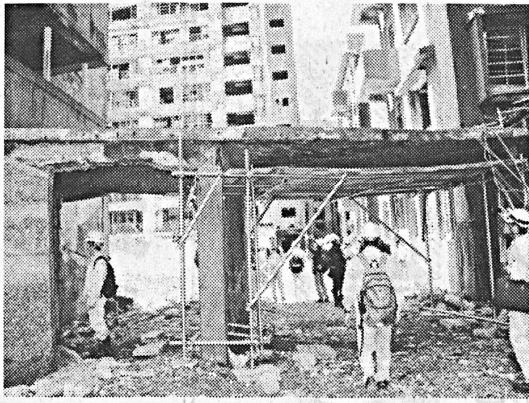
テラメンタ
協会
クリメン
タ協会
コンナ

(一社)コンクリート
メンテナンス協会(徳納
剛会長)と広島県コンク
リート診断士会(米倉亜

州夫会長)は14日、長崎
市の端島(軍艦島)で会
員約40人が参加する現地
研修会を開き、閉山当時

のまま残るコンクリート
構造物の劣化状況や、同
会らが数年前から実施し
ているコンクリート試験

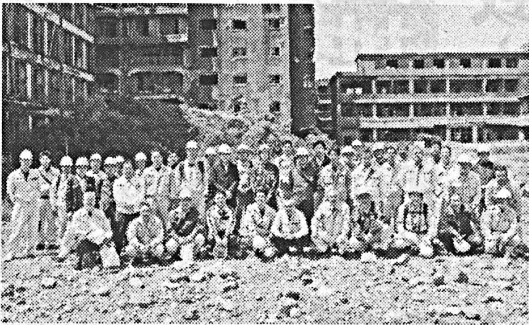
体の曝露試験の経過状況
などを調査した。
長崎港の南西約19キロの
海上に浮かぶ端島は、江
戸時代後期に石炭が発見
されたのち、1890年
から本格的な炭坑の島
として開発。最盛期には
幅160㍍、長さ480
㍍の小さな島に520
0人が居住する人口密度
世界一の島として栄え、



最大の集合住宅65号棟付近



洗掘で杭がなくなった学校



研修会に参加した皆さん

※長崎市の許可を受けて
上陸・撮影しています

高層アパートや学校・病
院など多くのコンクリー
ト建築物が建設された。
その後、国のエネルギー
一転換政策を受けて74年
に閉山され、全住民が退
去。15年には「明治日本
の産業革命遺産」の一部
として世界文化遺産に登
録される一方、島内の建
築物は強い塩害環境の中
で当時のまま放置されて
いることから、コンクリ
ート技術者にとっては貴
重な研究の場にもなっ
ている。
研修会では、長崎市世
界遺産推進室の担当者ら
が注意事項を説明したの
ち、ヘルメットと安全靴
に身を包んだ参加者らが
2班に分かれて島内を一
周。至るところで塩害等
による鉄筋の腐食や破
断、コンクリートの剥落、

崩壊等が発生し、建物全
体がいつ崩れてもおかし
くない状況であるため慎
重に歩を進め、日本最古
のRC造集合住宅といわ
れる30号棟や海水による
洗掘で基礎杭がむき出し
になり、さらに杭の一部
がなくなっている学校を
見て「なぜこれで崩れな
いのか」などと驚きの声
を上げていた。
また、同会や日本コン
クリート工学会などの関
連団体がコンクリート試
験体を設置して行ってい
る現地環境の曝露試験調
査も視察し、同行した長
崎大学の松田浩教授、
佐々木謙二助教らが試験
状況を説明した。
今回調査したのは、一
般観光客向けのルートで
はない立ち入り禁止の区
域。通常は視察目的でも

立ち入りが許されていない
が、参加者全員が劣化
・補修の専門家というこ
とで特例で許可が下り
た。長崎市としても今回
の調査で得た意見を今後
の整備事業に活用するこ
とをいう。
調査終了後、徳納会長
(福徳技研)は、「私は
何度も来ているが、今後
の補修を担う方々にぜひ
見てほしかった。この経
験をそれぞれの業務や研
究に役立ててもらえれ
ば」とし、米倉会長(米
倉社会インフラ技術研究
所)は、「コンクリート
はメンテナンスしていれ
ば長持ちするが、逆に何
十年も放置しているのは
世界的にも珍しい。貴重
な機会を作ってくれた関
係者の皆さんに感謝した
い」と話していた。